

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・信頼を築く
- ・技を磨き、伝える
- ・夢をいだき、挑戦する

企業行動5つの誓い

- 法令遵守** ▶ その行為は**法律に違反していないか**
- 企業倫理** ▶ その行為は**企業理念や倫理に違反していないか**
- 社会常識** ▶ その行為は**社会の常識か**
- 社会の目** ▶ その行為は**社会の目、安心、安全にそむいていないか**
- 自分の心** ▶ その行為は**間違いないか、自分の心に問いかける**

(2017年現在)

社名：株式会社 NIPPO

英文社名：NIPPO CORPORATION

設立：1934年(昭和9年)2月

本社所在地：〒103-0028
東京都中央区八重洲1-2-16 TGビルディング
TEL 03-3563-6751(代表)

代表者：代表取締役社長 岩田 裕美

資本金：15,324百万円

事業内容：建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
開発事業およびその他の事業

従業員数：1,525人(男性1,437人、女性88人)
※2017年3月31日現在

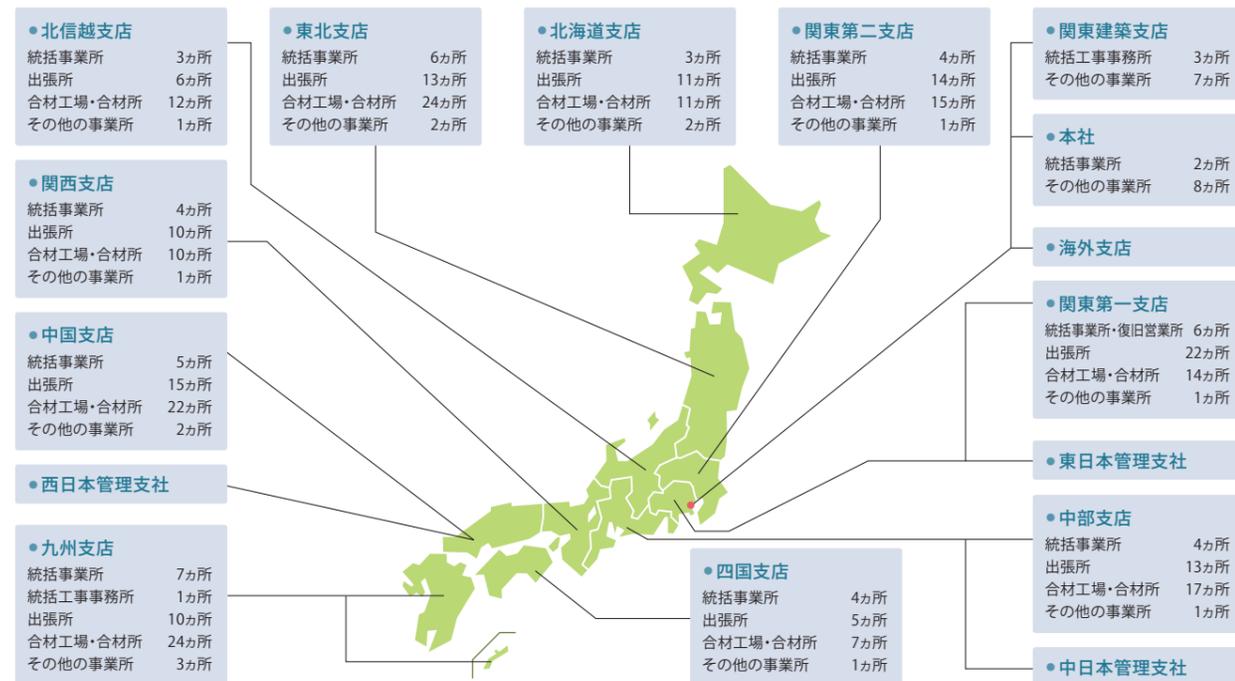
ホームページ：https://www.nippo-c.co.jp/

株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業としています。

舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシングコース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほかの舗装工事業者にも販売しています。

このほか、オフィスビルや工場等の建築工事、都市型マンションの分譲や市街地再開発等の開発(不動産)事業、土壌浄化事業、海外事業といった戦略事業を取り込み、事業基盤を強化しています。

事業所一覧 (2017年4月1日現在)



CSR活動への取り組み

- 1934 日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
- 1993 企業行動倫理委員会設置
- 1994 環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置
企業理念・行動指針制定
- 1995 シンボルマーク改定
- 1998 環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
- 2003 日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更
法令遵守(コンプライアンス)体制構築
- 2004 環境報告書創刊
- 2005 CSR体制構築
- 2006 企業理念・行動指針改定
- 2007 CSRレポート創刊
- 2009 「株式会社NIPPO」に商号変更
- 2012 プラントエンジニアリング部門を「JXエンジニアリング株式会社」に会社分割

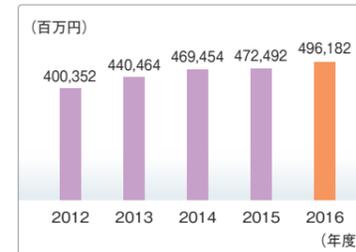
▶売上高(連結)



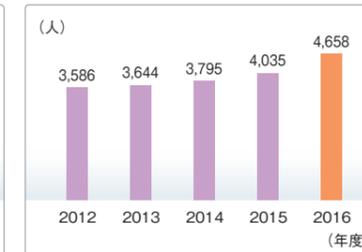
▶経常利益(連結)



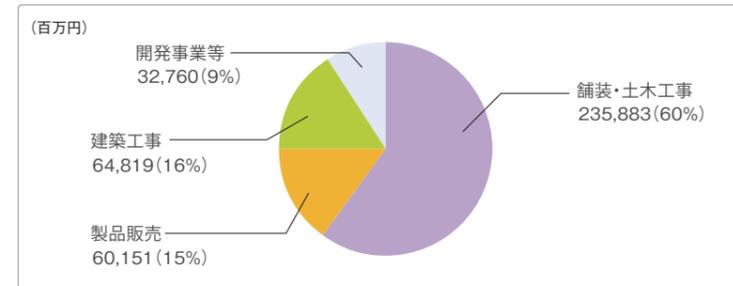
▶総資産額(連結)



▶従業員数(連結)



▶事業分野別売上高(2016年度)(連結)



CONTENTS

- 会社概要 ————— 01
- トップメッセージ ————— 03
- NIPPOの事業 ————— 05
- マネジメント報告
 - コーポレート・ガバナンス ————— 07
 - CSRマネジメント ————— 08
 - コンプライアンス ————— 09
 - リスクマネジメント ————— 11
- 環境・安全報告
 - 品質保証体制 ————— 12
 - 環境マネジメントシステム ————— 13
 - 舗装事業における環境保全活動 ————— 15
 - 舗装事業における環境・安全対策技術 — 17
 - 戦略事業における環境・安全配慮 — 19
 - 安全管理 ————— 21
- 社会性報告
 - お客様の信頼を得るために ————— 22
 - 従業員とのかかわり ————— 23
 - 社会とのコミュニケーション ————— 25
 - 読者の声を受けて ————— 27
 - 第三者意見 ————— 30

編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済、環境、社会とのかかわりについて、多くの方々を知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社と関わる多くの方々とのコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思っております。

対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・統括工事事務所・復旧営業所52カ所、現業事業所305カ所(海外を除く)。
対象期間：2016年度
(2016年4月1日から2017年3月31日)
一部には、時期を明示した上で2016年度以前の情報と2017年9月までの最新情報を掲載しています。

皆様のご期待に応える会社であり続けます。

信頼の回復に向けて

一連の独占禁止法違反事件につきまして、株主の皆様、お取引先をはじめ数多くのステークホルダーの皆様にご多大なるご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社は、このような事態を深刻に受け止めて深く反省するとともに、独占禁止法違反行為を再び繰り返すことのないよう、「コンプライアンス体制の改革」「適正な受注活動を確保するための施策」「組織・人事的対応」の3つの事項を柱とする再発防止策の実行を決定し、現在、これに基づく諸施策を実施しております。また、2017年4月には「法務部」を新設し、再発防止に向け組織力の強化を図っていく所存です。

当社は、不正行為を二度と繰り返さない企業風土・企業文化が備わった会社づくりを真剣に進めて、全社一丸となって信頼の回復に努めてまいります。

仲間を守るために

当社には、事故防止に向けた様々なルールがあります。これは過去に残念ながら発生してしまった死亡事故などを教訓として、二度と仲間から尊い人命が失われないよう「死亡事故ゼロ」を目指して決めたものです。しかしながら、安全は一朝一夕で成るものではなく、小さな努力を積み上げていくことでしか成しえませんが、そのためには「当事者意識」を持つことが重要です。「当事者意識」を持つことにより、他で起こっていることを自分の事として意識し、先手を打って事故防止の対策を進めることができます。

当社では「当事者意識」を持つこと、そして現場に足を運び、現物を確認し、現実を目で見る「三現主義」の実践を基本として、死亡事故を絶対起こさせないために取り決めた「安全作業5つの誓い」の実施を徹底しています。

- ① 重機作業：人との分離を実施したか
- ② 車両後退：誘導合図を確認したか
- ③ 土砂崩壊：土止めはしたか
- ④ 墜落・転落：安全帯を使っているか
- ⑤ 非定常時作業：装置は止めたか

「人命尊重」は企業の基本です。当社はこれからも、ルールと決めたことを確実に守り、粘り強く安全に取り組んでまいります。

株式会社 NIPPO 代表取締役社長

岩田裕美

「確かなものづくり」を通して

当社の企業理念にある「確かなものづくり」の言葉には、環境に配慮し、安全に世の中の決まりごとをしっかりと守り、確かな品質のものをお客様にお届けする、という意味が込められています。つまり、法令遵守や環境保全、安全管理、品質保証等についての要求事項を満たすことです。当社が将来にわたり生き残るためには、この「確かなものづくり」を通して、法令、環境、安全、品質など、あらゆる社会的要求に適正に応え、お客様から選ばれ続けなければなりません。

この「確かなものづくり」を成し遂げていくのは人です。当社では「ものづくり」は「人づくり」の基本理念のもと、従業員の問題意識やCSRの意識を高めるための育成研修に注力するとともに、常に社会から信用・信頼され、そしてお客様から選ばれる会社となるよう、様々な取り組みを進めてまいります。

環境に優しい技術を皆様へ

当社は、都市環境改善およびヒートアイランド抑制の技術として「遮熱性舗装」の展開を進めています。この「遮熱性舗装」は車道用の技術として開発を始め、今では住宅地用、歩行者用、そしてスポーツ施設周りに適用できる商品等を取り揃えており、皆様の身近な存在となっております。

また土壌浄化の分野におきましては、これまでは土壌に混在した油除去を中心に展開してまいりましたが、これからは揮発性有機化合物（トルエン、キシレン等）の除去技術を開発し、新たな分野においても普及展開を進めてまいります。

当社には、アスファルト舗装を中心に様々な技術が有ります。これまで培ってきた知識や経験を活かし、環境に優しい技術の開発に取り組むことで、社会に貢献していきたいと考えております。

社会の一員として

当社は全国各地に事業所を展開しており、それぞれの事業所が社会の一員として自然災害の復旧活動をはじめ、地域に密着した清掃活動や交通安全運動、町内会活動などに従業員が積極的に参加しております。さらに今、これまでの活動に「もう一つ」新しい取り組みを行うべく、「+1（プラスワン）活動」を推進しています。この取り組みの一環として、2016年度は2回（8月および2月）、全社一斉ボランティアとして、道路清掃活動を行いました。

この他、NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」へアスファルト合材1トンにつき1円を寄付する取り組みや、教育を支援する事業「おしごと はくぶつかん」への協賛、さらにはJXTGグループの一員として「童話の花束」チャリティー活動への参加など、様々な社会貢献活動にも取り組んでおります。

当社は、これからも社会の一員として、皆様と共に歩んでまいります。

おわりに

国内景気は引き続き緩やかな回復基調で推移しておりますが、建設業界においては、建設技能労働者の不足や原材料価格の上昇など、企業経営を取り巻く環境は厳しい状況にあります。このような状況下にあっても、当社はステークホルダーの皆様のご期待に応え、社会から必要とされる企業であり続けるため、引き続きCSR活動に積極的に取り組んでまいり所存です。

本報告書では、法令遵守に向けた取り組みや事故防止に向けた安全への取り組み、環境に配慮した技術の開発、さらには地域に密着した社会貢献活動など、当社が日頃から行っているCSR活動を、できるだけわかりやすくまとめました。また、CSRに対する従業員の考えや各々の取り組みについてもご紹介しています。

本書を是非一度お読み頂き、皆様のご理解、ご支援、そして忌憚の無いご意見を賜りますようお願い申し上げます。

NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会の様々な場面で
当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、
豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理票購入費の一部は、土壌汚染対策基金に使われています。

開発（不動産）事業



ル・サンク那覇西街

環境と安全に配慮し、永く安心できる住環境の提供を柱とした不動産事業を展開しています。「環境重視」「安全性の高い商品企画」「資産価値の高い街づくり」をコンセプトとし、全国の主要都市において、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズおよび市街地再開発事業に取り組んでいます。

海外事業



N-RAM(ミャンマー合弁会社)
アスファルト合材プラント

中国やインド、東南アジア諸国を中心としたテストコースの建設、アフリカ諸国を中心とした日本政府の開発援助(ODA)による道路整備事業への参画、ミャンマーでのアスファルト合材事業の展開等、当社の道路分野における長い経験、高い技術力を活かし、世界での活躍の場を広げ、各国のインフラ整備に貢献しています。

建築事業

1983年から本格的に建築事業に取り組み、多彩な建築を手がけてきました。設計・施工・アフターサービス・修繕・メンテナンスまで一貫した体制を確立し、お客様の信頼を得ています。これまで培ってきた地域社会とのつながりを活かし、環境に配慮した最良の建築物をかたちにしています。



リゾートマンション建築

舗装・土木事業
高速道路

舗装・土木事業
スポーツ施設

舗装・土木事業
空港

舗装・土木事業
一般道路

製品製造・販売事業



京葉合材工場



レミファルトST-W

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネルギー機器の導入等によるCO₂排出量削減に取り組んでいます。

舗装・土木事業



三陸道多賀城



泉中央駅前ペデストリアンデッキ

1934年の会社設立以来「道づくり」を中心に高速道路や空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年では、路面の温度上昇を抑制する「遮熱性舗装」を世界で初めて開発し、道道環境や地域環境の保全に向けた技術開発にも注力しています。